

「金持ちケンカせず」ということわざがあります。金持ちは金持ちになるまでは激しいケンカ(競争)をくり返しますが、金持ちになるとケンカをするのがバカらしくなり、互いに競存競栄体制(競い合いながら共に栄える)を望みます。アメリカは1980年~1990年代の流通飽和期を経て、各分野で勝ち組みが明確になってきています。流通の勝ち組みの最終形は「2.5体制」です(六車流:流通理論)。つまり、正規な企業2社と、ニッチニーズを対象とする0.5企業(複数)の2.5体制です。この2.5体制というのは万物普遍の原則であり、流通業においては、売り手と買い手の両者の「神の見えざる手」によって成り立つものです。通常、勝ち組みは激しい戦いを勝ち抜いて来て、最後は1社になるはずですが、戦国時代から各大名が激しい戦いを行い、関ヶ原の合戦で、徳川体制の1体制が確立されます。非民主主義は政治の社会(徳川政権も政治の社会です)では軍事力を伴う権力によって国民を押さえつけることが出来、その結果、1体制になります。しかし、民主主義社会になると軍事力を伴う権力は国民の手に握られます。そうすると、国民の意思は選挙を通じて異なる政策の政党が複数出来ます。その結果、今日の世界の定石は政権担当能力のある2大政党と、ニッチな特別なニーズに対応する小政党の2.5体制となります。この2大政党は、互いに相手を倒すための戦いではなく、互いに違いを出すことにより国民の選択肢を確立させているのです。つまり、国民から見て、1つの独裁政党でなく、両方ともあって欲しい政党なのです。常に国民は自分達の意見が政党及び政権交代で実践できるようにしているのです。

流通業界でも、わが国は2006年~2015年の流通飽和期を経て、流通競存競栄期(互いは争いながら共に栄える時代)になります。つまり、勝ち組同志が互いに得意分野を明確にし、棲み分け体制に突入することになります。

アメリカでは各分野で2企業体制(+0.5企業)が、互いに得意分野を異ならせて、1位と2位が互いに競い合いながら棲み分けています。

総合D S業界は、ウォルマートとターゲットは互いに得意分野が異なり競存競栄しています。ウォルマートと同質化していたKマートは倒産しました。

GMS(PDS)業界は、シアーズとJ Cペニーは互いに得意分野が異なり競存競栄しています。モンゴメリワードは中途半端なGMSであり倒産しました。

アメリカの百貨店業界もフェデレイテッドグループのメーシーズとノードストロム(今は0.5ですが、やがて1.0に向かいます)が互いに得意分野を異ならせて、競存競栄しています。

ホームセンター業界も、ホームデポとロウズが得意分野が異なり競存競栄しています。

ブック業界も、バーズ&ノーブルとボーダーズが得意分野が異なり競存競栄しています。

スポーツ業界は、スポーツオーソリティ、スポーツマート、オシュマンズの旧体制企業は激しい同質競争を行っていますが、REIやバスプロショップスやギャルヤンズ(現在ディックス)の新業態は得意分野が異なり競存競栄しています。

家電業界もベストバイとサーキットシティが得意分野で異なり競存競栄しています。

SM業界は、クローガー、セーフラエイ、アルバートソンズ(解体)の(旧御三家)は激しい同質競争とウォルマートのスーパーセンターに圧倒されていますが、ホールフーズ、ウエグマンズ、HEB・セントラルマーケット(新御三家)は、得意分野が異なり競存競栄しています。

このように、アメリカでは激しい戦いは業界が2.5体制になる前に終わり、互いに勝ち抜いてきた2.5企業は棲み分け分野の新一番型企業(何かで棲み分けなさい。棲み分けた以上1番になりなさい。棲み分けた分野で2番店は、コテンパンに敗けます)となって、互いに異なる得意分野で棲み分けしつつ、競存競栄しています。勝ち抜くまでは激しい戦いをするが、勝ち残ると、直接的な戦いは少なくなります。正に、金持ちケンカせずです。今、わが国では流通飽和期に向かっていますので、流通飽和期の後の2.5体制になるまで、激しい戦いが起こります。